

SSH 野外実習基礎講座「生物編」

を実施しました

□実施日 事前指導：令和4年6月30日（木）

実習：令和4年7月18日（月）

□参加生徒 普通科2年 SSH コース8名

□連携機関名 千葉県立中央博物館

□内容

千葉県君津市の清和県民の森にて SSH 野外実習基礎講座生物編を行いました。講師として千葉県立中央博物館の尾崎先生・西内先生をお迎えしました。両名は博物館で千葉県の植生などの展示や紹介をしている他、長年調査も行なっているスペシャリストです。今回は清和県民の森に流れる沢づたいに山中に入り、植生の観察を行いました。このあたりの植生は、江戸時代より伐採され山中で木炭にして町へと出荷されていたため二次林となっていました。また山中には昔の木炭製造に使われていた窯の後も見られました。山頂の方へ向かうと、崖沿いの険しく日当たりのよい場所に寒冷地に存在するヒメコマツを見ることができました。千葉県に現存するヒメコマツは最終氷期の生き残りと考えられていて、個体数が約85と非常に少なくなっており、保全が課題となっていることがわかりました。山中はヒルや虫も多く、勾配の激しい場所はロープを使用して進みました。大変でしたが講義や経験はとてもよいものとなりました。



沢を進む様子



ヒメコマツ観察の様子



研修まとめの様子

□生徒の感想

- ・ヒメコマツが氷河期の生き残りの種であることから、地球の環境変化と植生の関係が良く理解できた。
- ・保全について多くを学ぶことで、生態的特徴も理解できた。
- ・千葉県の植生や二次林について学び、当時の千葉県の産業との関わりが大きく影響していることを学んだ。
- ・ヒルの対策や水分補給など山歩きの体験としてもよかった。